



「見たり、聞いたり、探ったり」No.211

通算 No.363

青 木 行 雄

「夏の思い出」(平成29年7月1日)

それは「木遣」十数人の祝歌から始まった。

無形文化財として深川・木場に長い伝統のある、木場木遣保存会、会長・石橋昭宏氏の音頭で、元赤坂の「明治記念館、2階富士の間、大ホール」に於いて、平成29年7月1日11時30分開会した。参加者約400人の記念祝賀会となった。

午前11時30分、場内の照明が暗くなった。会場の入り口の扉が開かれた。会長・石橋昭宏氏を先頭に次々と木遣の11人の方々が祝歌を歌いながら入場する。会場の後方に大きく青木行雄祝賀会と書いた「提灯」を持った「はじめ」が入場し、その後に正装した、青木が入場となる。テーブルの合間を抜けながら、中央のステージへ向かう。

「提灯」はステージの端に立てられて、木遣の方々はステージの中央に整列して、伝統の祝歌を披露。普通テレビ等しか見られない。この「木遣」をナマで聞いて「感動した」と言われた方が大勢いた。

この祝歌が終わり、本会の開会となった。

私が75才になった、5年前の7月1日、80才の時の日付を調べたら、平成29年7月1日は土曜日であることがわかり、漠然ではあったが原稿はあるので、出版を考えはじめた。そして2年前の平成27年7月1日計画を実現するための準備に入った。まず会場をおさえ、出版会社等の協力者を探し組合にも相談した。10ヶ月程前に大分県観光特命(かぼす)大使に任命を受け、それから、ふるさとの為にとの思いから、音楽CDの制作まで、仕事の片わら時間におわれての毎日だった。まず「作詩」し、作曲は同じ中津市出身で「猪俣公章」の門下生であった「梶原豊樹」氏にお願いし、歌は「芹洋子」さんにと交渉が始まった。

何回かの交渉で承諾を受け、苦労の後、立派な歌を



※明治記念館2階の富士の間。参加者約400人の方々でいっぱいになった。



※木場木遣保存会の皆様。ズラリと整列され祝歌を歌われた。

作ってもらいました。そして「芹洋子」さんがキングレコード所属の為、キングレコードより、当日全国発売となったと言うわけである。

こんなわけで、平成29年7月1日「明治記念館」での記念祝賀会は、「組合月報」での本の出版と、大分観光(かほす)特命大使就任と歌披露に傘寿の祝いという事でよくばりで4つの祝いを兼ねた祝いになりました。

皆様にお誘いの案内状がご迷惑ではないかと思いつながら出させていただいたり、当日の席順など、全員メインにお願いしたいところだが、なかなかそうもいかず、席順が一番の苦勞。末席などで申しわけないと言う思いで終止した御席名簿だった。

当日は私が所属する「東京アサヒ会」の高野孔明代表他幹事の方々に、受付・進行をお願いしていた。皆様に苦勞もおかけしたが、スムーズに進行し、感謝でいっぱいである。

司会はスリランカ出身の「アントン・ウイッキー」と、日本航空・元客室乗務員の「木下茂美」さんをお願いした。

ウイッキーさんをちょっと紹介すると、スリランカ生まれで日本在住の国際比較学者、外国人タレント。国立セイロン大学卒、1961年(昭和36)に文部省の国費留学生として来日。東京大学農学部大学院で海洋生物学を学び、1969年(昭和44)に博士号を取得。

日本テレビ「ズームイン!!朝」のコーナー「ウイッキーさんのワンポイント英会話」で全国的な知名度を得た。親しい友人の紹介で数年前からお付き合いをさせてもらっている。

木下茂美さんは、有名大学を卒業後、日本航空に就職、数年後独立起業し、多忙な毎日の中お願いした東京アサヒ会のメンバーでもある。

せっかくですので「木場の木遣」について記してみたい。

木場の木遣は、徳川家康が江戸城造営の時に連れてきた材木商が伝えたものと言われているが、確かな



※祝賀会で初発表した、「温泉大分日本一」と「美しき山国川」の曲を作られた梶原豊樹さん(左側)と、歌われた芹洋子さん(右側)と中央の私。



※祝賀会、受付の会場風景。お願いしたアサヒ会の皆様。



※受付にて入場する来賓の方々、元NHK相撲アナウンサー・杉山様、まだまだお元気で参加いただいた。

ことは不明とされている。木場の筏師(川並)が鳶口一つで材木を操る時の労働歌で、互いの息を合わせるため、掛け声のように即興の詩をつけて歌ったものである。そのため木の大きさによる仕事のテンポの違いから、それぞれフシ(間)の異なるものができた。近年は各地から職人が集まるようになって、仕事場では歌われなくなり、今では保存会の人たちによってのみ祝儀の場などで歌われている。

どうしてもこの「木遣」をお願いしたいと当初から思っており、この祝賀会でお引き受け頂いた。後にビデオの映像を見て、すごい迫力で感動をいただいた。

～式次第～

| 青木行雄氏 記念祝賀会(平成29年7月1日) | | | |
|------------------------|---------|-----------------|-----------------|
| ～ 式 次 第 ～ | | | |
| | 開 場 | 10時30分 | 司会 アントン ウィッキー 様 |
| ① | 開 会 | 11時30分 | 無形文化財「木遣り」 入場 |
| ② | 発起人代表挨拶 | 太田道重 18代子孫 | 太 田 資 暁 様 |
| | | 東京木材問屋協同組合 理事長 | 渡 辺 昭 様 |
| ③ | 来 賓 祝 辞 | 林野庁長官 | 今 井 敏 様 |
| | | アフリカ駐日ギニア大使館 顧問 | オスマン サンコン 様 |
| ④ | 新曲披露2曲 | 「温泉大分日本一」他 | 芹 洋 子 様 |
| ⑤ | 祝 電 紹 介 | | |
| ⑥ | 来 賓 紹 介 | | |
| ⑦ | 乾 杯(挨拶) | 全日本木材市場連盟 会長 | 市 川 英 治 様 |
| ⑧ | 祝 宴 歓 談 | | |
| ⑨ | イ ベ ン ト | 「持ち歌3曲」 | 芹 洋 子 様 |
| ⑩ | 花 束 贈 呈 | | |
| ⑪ | 御 礼 挨 拶 | 謝辞 | 青 木 行 雄 |
| ⑫ | 閉 会 挨 拶 | 大分県人会 前会長 | 佐 藤 泰 久 様 |
| ⑬ | 閉 会 | (14時00分) | |

当日発起人代表で挨拶をいただいた太田道灌18代子孫の「大田資暁」様について紹介したいと思います。

太田様は私の所属する「江戸城天守を再建する会」の会長を務められて10年以上前からのおつきあいで公私共にお世話になっている。この度の本出版もいろいろと御指導いただいた。2020年のオリンピックの年にNHKの大河ドラマに「太田道灌」の推薦を受けるために奮闘している。

渡辺昭様は、現在東京木材問屋協同組合の理事長で、米杉等を扱う大問屋「高広木材(株)」の会長で私も大変お世話になっております。

来賓祝辞で一番先をお願いした「今井敏」様は林野庁長官で親しくしていただいている。

時々、長官室に行かせてもらったが、仕事の話はほとんどなく、木材の話や世間話が大半である。私の会社にも近くに来た折には立寄ってもらったこともあった。

来賓祝辞に「オスマン・サンコン」様にもお願いした。現在アフリカ駐日ギニア大使館顧問をしており、大変な親日家である。時々新木場にも来られるが、彼は、木場公園の近くのマンションに住んでいる。ふぐやすっぽんが大好きで、時々一緒に食事をしている。平成29年春の叙勲・旭日双光章を受章され、東京プリンスホテルで8月18日、盛大に祝賀会を行われたのでこの様子を後日「月報」に記したいと思っている。

式次第の順に記すと、4番目の新曲披露2曲、「温泉大分日本一」と「美しき山国川」はおかげさまで、大変好評で、少しずつだがCDも売れ始めた。

祝賀会で発表したすぐ後に大雨災害があつて自粛していたが、観光客の誘致に良い歌であるとの評判もいただいた。

祝電紹介は数十件いただいたが、その中に案内の発起人まで引き受けてもらった、大分県知事・広瀬勝貞氏よりいただいた祝電を記してみた。



※発起人の代表で最初に挨拶をお願いした「太田資暁」様「江戸城再建」の会長を務めている。



※東木協理事長の渡辺昭様発起人をお引き受けいただき、すばらしい挨拶をいただいた。



※来賓祝辞をお願いした、林野庁長官の今井敏様。仕事抜きでお世話になっている。

青木行雄 様

お祝い

「お元気に傘寿を迎えられ、本日、随想分のご出版、『豊の国かほす特命大使』のご就任など多くのご功績を讃えた祝賀会がかくも盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。今後共にご壮健で益々のご活躍をお祈りしますとともに、ふるさと大分の発展にご支援を賜りますようお願い申し上げます。」

大分県知事 広瀬勝貞

平成29年7月1日

挨拶・乾杯は「市川英治」様をお願いした。市川氏は、(一社)全日本木材市場連盟の会長を務め、木材プロ認定制度を発案し、IWA・「木材アドバイザー証」を試験の後発行し、木材のプロ育成に努力するなど、業界の重鎮と言われております。

挨拶には会社の業績の事や、個人的に大変お褒めの言葉を頂き大変恐縮したが、この挨拶・乾杯を引き受けて頂き感謝・感謝であった。

イベントには芹洋子さんの持ち歌をお願いし、「坊がつる^{さん}譜歌」・「四季の歌」など歌っていただいた。大変好評であった。

生花は「東京木材問屋協同組合」をはじめ、30基近くの生花が入口にずらりと並び、また、作詩など芹さんの関係から、キングレコードの社長からの生花が目立った。そして、手渡しの花束も10件近くいただきうれしいかぎりであった。

謝辞には、あらかじめ用意した文面を感謝の気持ちを込めて言うつもりだったが、なかなか思うように言えず、何を話したか良くわからない程あがっていたが、感謝の気持ちでいっぱい、これからの人生に大きな節目を刻んだ。

閉会の挨拶は、大分県人会の会長で、日水の副社長をされた方、佐藤泰久様をお願いした。大分・由布院の出身で多くの会長をされており、素晴らしい方である。挨拶の後、万歳三唱で閉会となった。



※オスマン・サンコンさん、10年以上、木場に住み、大変な親日家である。今年の春の叙勲で旭日双光章を受章した。6カ国語が堪能で優秀なギニア人。



※乾杯と挨拶をお願いした、(一社)全日本木材市場連盟の会長・市川英治様。



※ずらりと並んだ祝いの生花。終了後、参加者の皆様にお持ち帰りいただいた。

発起人の方々の助言や関係者の皆様の助力や協力により無事に終わり、これ以上の幸せはないと満足と共に参加いただいた皆様にご迷惑もおかけしたのではと反省もしている。本当にありがとうございました。

終わった後かたづけや、お祝いをいただいてご参加いただけなかった方々へのお礼等に時間もかかり、ようやく目処がついたところである。

祝賀会の総合進行をお願いした、高野孔明氏から身にあまる、メッセージをいただき記させていただきました。

「夢ではないかと思う程、立派で素晴らしい祝賀会が終わり、改めて7月号『月報』の随想文を拝読させて頂くと、この故郷があったからこそ、今の青木さんの神髄が生れたような気がしてなりません。歌詞を何度も読み直すと涙があふれて来ます。次の世代の人のために、こんな素晴らしい詩・歌を残せることは本当に幸せ者です。そういう友人を持った私も幸せ者です。ありがとうございました。」

又、数件手紙やハガキも頂き感謝ですが、斉藤さんと言う人からの文面を記して「夏の思い出」を終わりにしたいと思う。

「前略。7月1日の明治記念館で開かれた青木さんの諸々の記念パーティーでいただいた『木・氣・樹・人生の旅日記』。青木さんのお人柄たっぷりの懇切で、臨場感溢れるご案内で、一気に読ませて頂きました。30年間、業界誌に寄せられた由の360編ものエッセイから選ばれた、32編の珠玉の作品群、何れもご自身が集められた情報量たっぷりのガイドブックになっていますが、それは筆者の人生感やお人柄が伝わってくる、まさに『人生の旅日記』でした。『木・氣・樹…人生の旅日記』の標題通り、筆者の『器』の大きさ『生』の人間性にも触れることが出来たと言うのが読後感であり、小生自身の行動力不足を反省もさせて頂きました」

こんなにも身にあまる文面のメッセージを頂き感謝の連続だが、一つの事を完成することの大事さや、大変だと言うことも痛感した。

しかし、人生は、常に決断の連続、大きいか小さいか、気がつかないままの決断も多くある。人生、出来るか、出来ないかではなく、やるか、やらないかで決まる。小さい事よりも、大きい事の方が達成感は大きいはずである。

何をやるにも1人では何も出来ない。いろんな方の協力や援助がなければ事は何も出来ないし、進まない事もわかった。これからも、感謝・感謝の気持ちで人生をまだまだ謳歌していきたいと思っている。

平成29年8月27日記